

第29回全国交流集会基調

はじめに

全国から結集された仲間の皆さん、コロナ禍の中で久しく対面での交流ができませんでしたが、今集会は5年ぶりで1泊2日の開催となります。

現地実行委員会の皆さんには、開催の成功に向け準備をしていただき心より感謝申し上げます。運営上の不備、行き届かない点は、同志的な連帯の中で格別のご配慮をいただきますようお願いいたします。

さて、本交流集会には〇〇県協から〇〇〇名の仲間に参加を頂きました。短い日程ですが実りある交流会になることを願っております。

それでは、以下、交流の基調を提案いたします。

私たちを取り巻く情勢

国際情勢

戦争拡大の危機

ロシアによるウクライナ侵攻から2年以上が経過しました。戦況は拡大の一途をたどり泥沼化しています。この戦争は、ロシアと欧米支配層のエネルギーや鉱物資源等の利権をめぐる帝国主義間の争いです。

また、昨年10月、パレスチナ自治区・ガザを実効支配する「イスラム抵抗運動・武力組織ハマス」とイスラエルとの戦闘が始まりました。イスラエルは、ガザ地区への地上侵攻を強めています。市民の犠牲者は〇〇, 〇〇〇人以上(〇月〇日現在)になっています。イスラエルによる56年間の占領支配、「天井のない牢獄」と言われる16年にわたる包囲の中で200万人もの人々がイスラエルの殺戮攻撃から逃れる日々を送っているのです。

さらに、ガザの戦争勃発を機に今年1月、イランの革命防衛隊員がシリアの首都ダマスカスでイスラエル軍による攻撃により死亡したのをきっかけに、中東ヨルダンのアメリカ軍拠点がイランの無人機で攻撃されアメリカ兵が死亡。その報復としてアメリカはイラクとシリア領内のイラン革命防衛隊施設を空爆、攻撃を継続させると言っています。

世界は今、ロシアとウクライナ、パレスチナ地区の戦闘勃発、そして中東各地での軍事衝突へと戦争拡大の緊張が高まっています。戦争で犠牲になるのは労働者であり、その家族と市民です。

欧米で広がる賃上げの闘い

昨年9月15日、全米自動車労働組合(UAW)は、アメリカの3大自動車メーカーに対し40%の賃上げを求めストライキを決行、46日間にわたる闘いを経て2028年4月までに25%昇給をすることで合意しました。

全米では長引くインフレの中、賃金の引き上げを求める動きが広がっています。

ヨーロッパでも各地でストライキが頻発しています。欧州航空管制機関ユーロコントロ

ールの労働組合は、賃金引き上げと労働条件の改善を求め闘っています。フランスでは、年金受給引き上げ計画に反対した航空管制ストライキで航空便の遅延や運航制限が生じました。イタリアでは、航空管制スタッフのストライキで約1,000便が欠航。フィンランドでも産業労働組合が3月に政治ストライキを実施すると発表。イギリスやドイツでも鉄道、地下鉄などの公共交通機関でストライキが準備されています。

国内情勢

災害に対する無為無策の政府

1月1日、能登半島でマグニチュード7.6の地震が発生し、2月7日現在で241人の方が犠牲になり、災害関連死者も15人、未だに多くの方が避難所生活を送っています。岸田首相は「復旧に向けて迅速な対応をする」と口では言っていますが、輪島の朝市火災現場は焼けたビルが骨組みだけを残して海風に吹きさらし。輪島市街地の7階ビルも倒壊したまま。道の真ん中に30センチも隆起したマンホール、ワニの口のように裂けた道路など時間が止まったままの状態になっており、政府の無為無策ぶりを露呈しています。

不安増す志賀原発

石川県の北陸電力志賀原発、1.2号機の変圧器配管が破損し外部電源5回線のうち2回線が使えなくなり、変圧器からは約2万リットルの絶縁油が漏れ、一部が海に流失しました。使用済み燃料を冷やす貯蔵プールの水も飛散し、1号機では一時冷却ができなくなったとされています。志賀原発の被害状況は積極的に情報開示されず施設損傷部分をブルーシートで覆い内部を見えなくしています。

東京電力福島第一原発事後、「原発依存度は可能な限り低減する」とした政府のエネルギー基本計画は、岸田首相の原発回帰・依存により推進へと大きく舵がとられています。地震大国の日本の原発が危険なことは明らかです。

過密空港の衝突事故

1月2日には羽田空港の滑走路上で日本航空の旅客機と海上保安庁の輸送機が衝突しました。日航機の乗員・乗客379人は一人の死者も出さず脱出することができましたが、輸送機の乗員は6人のうち5人が死亡するという痛ましい事故でした。

今後、事故の原因が明らかになっていくことと思いますが、羽田空港は東京オリンピックへの対応で国際線の離発着枠を大幅に増やしたため、世界で3番目に過密な空港になっており、過密運行などの抜本的な改善が求められます。

裏金問題で混迷する岸田政権

国内の政治は、自民党の政治資金パーティー券裏金問題で混迷を深めています。毎年政党には国民の税金315億円が計上され、自民党には159億円が分配されています。その上、企業からのパーティー券購入収入で目標額を上回った分を議員にキックバックし、その金を記載せず闇資金にしていたというものです。不記載額は判明しただけで現職の議員82名、5億6700万円にも上ります。訂正後の収支報告書は「不明」だらけ。政治資金規正法違反、脱税の疑いのある裏金疑惑に対して東京地検は安倍派幹部7人を不起訴、大半の議員も立件を見送ろうとしており許すことはできません。

相次ぐ増税と値上げ

岸田首相は43兆円もの軍拡予算を閣議決定、27年度以降に必要となる年4兆円のうち1兆円強を増税で賄おうとしています。

私たちの租税負担と社会保障負担の合計を所得で割った負担率は、47.5%と所得の半分近くを占めています。昨年は食料品だけで3万2395品目、今年も5月までに3900品目の生活必需品の値上げが見込まれています。

内閣の支持率は「支持する」17%、「支持しない」77%（2月17日・毎日新聞）と低迷し続けており、政治と金の問題は、自民党の長期政権の中で解決することはできません。内閣支持率にも現れている通り、政治への不満や怒り、変化を求める声は高まっています。労働者、勤労国民の声が反映される政権の交代を追求していきましょう。

労働運動の現状

お願いは“物乞い”

連合の芳野会長は、岸田首相が推進する「新しい資本主義実現会議」のメンバーとなり、2月26日の自民党大会に出席、資本との闘う姿勢を放棄し資本の側にすり寄っています。

私たちの賃金は、この30年間上がっていません。実質賃金は前年度比2.5%の減少です。一方で企業の内部留保金は511兆円（2022年度・財務省発表）となっております。

今年の春闘要求は5%超え、新聞各社は「1993年以降の歴史的な高水準」と報道していますが、私たちは1974年の国民春闘で32.9%の賃上げを勝ち取っています。経団連会長は「昨年以上の賃上げに果敢に取り組むたい」、岸田首相も「賃上げに向けて総力を挙げる」と強調し、芳野会長は「同じ方向に向いていることを確認できた」と政労使が一体となって賃上げに取り組んでいる、などと言っていますが、要求は闘い取るもので、お願いは物乞いです。

全国の闘う労働組合

昨年8月31日、東京・池袋の西武池袋本店を親会社セブン&アイが米投資会社に売却することに反対し、そごう・西武労組は一日ストライキを実施しました。労働者・労働組合の意向は蚊帳の外に置かれ売却は実施されましたが、61年ぶりの百貨店ストライキは大きな注目を集めました。

また、パイロット84名、客室乗務員84名が不当に解雇されたJAL不当解雇撤回闘争も14年目を迎えます。「納得のいく解決を獲得するまで」のスローガンを掲げ、JAL被解雇者労働組合（JHU）を新たに立ち上げ闘いの輪を拡げています。

2017年8月、労働基本権で保障されている「正当な労働組合の活動」に対し延べ81人もの組合員が逮捕されるという全日本建設運輸連帯労働組合関西生コン支部の組合つぶしを狙った資本の攻撃も、相次いで逆転無罪の判決を勝ち取っています。

郵政産業労働者ユニオンも、全国にストライキ拠点を配置し大幅賃上げと全国一律最低1500円の実現、正社員の労働条件を切り下げた均等待遇に反対し、郵政20条裁判最高裁判決で示された夏季・冬季休暇3日の実施を要求し闘いを強化しています。

厳しい情勢の中、全国で多くの労働組合・労働者が資本に対して闘いを挑んでいます。

大衆学習運動の強化

私たちは、「日本における社会主義社会の実現を勝ちとるために、大衆学習運動の強化を通して、科学的社会主義の思想を身につけた活動家をつくりだし、社会主義運動、労働運動の前進に寄与する」ために、労働者思想の主体性を回復し、日本の階級闘争を再構築することを追求しています。具体的には、①労働者が職場、社会の主人公である。②貧乏の原因は、自分の努力不足ではない。資本主義のしくみに原因がある。③従って、団結して闘う以外にない。④その闘いは、科学的社会主義の法則により必ず最後には勝利する、という四つの課題を、古典、資本、仲間の三つに学ぶという大衆学習運動の強化、拡大です。

県協連は、①第一学習会の強化、拡大、②『月刊まなぶ』3000部の達成、③総学習運動の組織的な取り組み、という3つの柱を立て労働者としてのものの見方、考え方を確立し労働運動、社会主義運動の発展を追求してきました。

全国に友の会組織は現在、〇〇〇友の会ありますが、この一年間の取り組みはどうだったでしょうか。

第一学習会の強化、拡大

徳島県協で若者を中心に「Y, s 友の会」(ワイズ)が誕生しました。県協の仲間が中心に取り組んできた津田塾(古典学習会)や「たたかう女子会」の学習を通して人間関係、信頼関係を築き、県協四役総がかりで結成に向けオルグをしたと報告しています。同じ徳島県協の〇さんは、昨年2名の仲間に会員になってもらいました。仲間に「A君を会員にしたい」と話したところ、一緒になって取り組んでくれた。「運動は一人でするものではなく、仲間とするもの」「誰が誰に関わるのか」をその都度、第一学習会で確認してきたと報告しています。

東京西部県協の仲間は、「地下鉄OB会」が、コロナ禍の中で活動の停滞を余儀なくしていたが、仲間から「OB会の活動をやろうよ」という声が出され、活動を再開した。OB会の仲間は、県協内の各友の会にかかわりを持っている。職場で何度も悔しい思いをさせられながら闘いを作り上げてきた仲間たち、「このままでは終わらせない」という共通の思いでつながっている報告しています。

熊本県協の仲間は、毎月欠かさず第一学習会を行っています。「ここだけが家庭の問題や悩みを率直に話すことができるから」と言います。

『月刊まなぶ』3000部達成に向けた取り組み

茨城県協のK会長は、今年3人の読者を拡大しました。「東日本大震災以降、脱原発の市民運動に深くかかわり、そこから反戦・平和・護憲の交流を深め運動の幅を広げてきたのが、拡大のきっかけ条件となった」と言います。6月に拡大したIさんは、「市議員に当選したら定期購読者になります」の声を信じ約3年間、拡大誌を送り選挙の応援にも行った、と報告しています。「常にアンテナを高く持ち、拡大対象者、拡大誌の活用や配布、集金、投稿依頼、読者から会員拡大の取り組みと学習会の組織化を目的意識的に追求して行きたい。“展望は取り組み次第”」と総括しています。

香川県協Mさんも8年前に「まなぶ講演会」で関りを持った仲間に退職後も学習会等への参加を呼びかけてきた。県協で「拡大運動」をしているので「有料でどうですか!?!」と言ったところ、有料読者になってくれた。拡大誌を渡して8年、アキラメたらダメです、と言います。

埼玉県協のKさんは、地元のセクハラ裁判やフラワーデモに参加し、そこで知り合った方に『月刊まなぶ』を渡し執筆依頼をしている。そういう中で2名の方に読者になってもらった、と報告しています。

東京東部県協の仲間は、亡くなった友の会員の命日に毎年墓参しています。妻が「駅友の会・家族ぐるみ交流会」に毎年参加してくれています。その関係をさらに深めるため読者になってもらう働きかけをしてきました。今年1月号から有料読者になりました、と報告しています。

会員、読者の高齢化で会員・読者の拡大も厳しい状況ですが、その中でも地道にあきらめず多くの仲間が拡大に取り組んでいます。

総学習運動の組織的な取り組み

『月刊まなぶ』『みんなの学習講座』は、2023年3月号まで『帝国主義論』（東京ブロック）、2023年4月号から2024年3月号まで『イギリスにおける労働者階級の状態』（関東ブロック）を取り組み、今年の4月号から『共産主義における「左翼」小児病』（四国ブロック）に取り組んでいます。

関東ブロックの仲間は、講座のレポート、原稿の取りまとめを6県協で分担し全体で取り組むことができ、関東の団結強化につながったと言います。

四国ではブロックチュータ養成講座で『資本論』『第23章・資本主義的蓄積の一般的法則』を23年5月と7月の2回に分けて取り組みました。『資本論』は難しいが、これまで古典を学習してきたことが確実に蓄積されている、と報告しています。香川県協でも「資本論研究会」が途切れることなく続けられています。

全国の友の会では、労働大学の『賃銀・価格および利潤』に学ぶ、『やがてくる日に』を第一学習会のテキストとして活用しているという報告もされています。

私たちの運動は、労働者が社会の主人公となるための運動です。社会主義社会の実現に向けた階級闘争を前進させるため唯物史観・剰余価値学説・社会主義運動を学ばなければなりません。中央講座では『賃銀・価格および利潤』（岩波文庫）に取り組んでいます。みなさんの受講をお待ちしております。

6ブロックの統一に向けて

県協連は、「統一に向けて条件を付ない」という方針で3ブロック（東北・中日本・九州）の窓口である中日本の保田さんと三宅副会長で話し合いを持ってきました。ここ数年話し合いの場が持たず「保田さんからの連絡待ち」という状況でした。

第28回県協連総会の中で「“待ち”の姿勢ではなく積極的に働きかけるべき」という意見もあり、年明けの2月、保田さんにこちらから連絡をとりました。

そのなかで「第29回全国交流集会に3ブロック代表者が参加できないか。また、3ブロックの交流会に、県協連から代表者が参加し相互に交流してみてもどうか」という提案

をし、3ブロックの世話人会で相談してみたい、という返事をいただきました。「連絡待ち」という状況は変わりませんが、できる限りコンタクトをとり統一に向けた道筋を模索していきます。

分散会の持ち方

次の2点を重点に交流してください。

- 1) 働き方、生活の見直しで、自分の要求があきらかになったのか。
- 2) それを第一学習会でどう議論してきたのか。

なお、友の会に入っていない方、家族の方には、これらを求めませんが、座長さんの計らいで無理なく、円滑に進めていただきたいと思います。

以上をもって基調提案とします。